SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

竹内正辰先生の御逝去を悼む

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2018-07-09
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 岩橋, 徹
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025444

竹内正辰先生の御逝去を悼む

岩　橋　　徹*

本会の名誉会員で、昭和41年から4年間会長を務められた竹内正辰先生は昭和63年11月26日、腹部静脈瘤出血のため倒れられ、静岡済生会病院急命救急センターで手厚い看護の甲斐もなく翌日逝去されました。享年82歳。まことに哀惜に堪えずここにご生前を偲んで心より哀悼の意を表します。

先生は明治39年9月8日東京でご誕生。昭和6年旅順工科大学鉱山科をご卒業、同大学副手に採用されました。昭和8年満州採金事業調査部技術員として小興安嶺南東部黒竜江省梧桐河の砂金調査に従事されました。昭和9年満州砂金株式会社に移られ、調査隊長として3年間黒竜江流域で砂金鉱床の調査を続けられ、昭和12年哈爾濱市の東北東330 km、松花江の支流沿い吉林省（当時）イカボツ鉱業所駝腰子採鉱場長、翌年哈爾濱の北北西450 km、嫩江支流、黒竜江省泥鰍河鉱業所長として砂金鉱床の採掘・選鉱の指導監督に当たられました。この7年間気象条件が極めて厳しく治安も悪い僻地にも拘らず、めざましいご成果を挙げられ、昭和15年9月新京（長春）の本社・鉱務課採金船係主任にご栄転、さらに翌年9月本社鉱務課長兼黒竜江省呼瑪鉱業所総所長に昇任されました。同月から旅順工科大学の講師（嘱託）を務められ、翌17年5月旅順工科大学助教授に採用され、昭和18年9月満州科学技術連盟鉱業部会常任幹事を委嘱されました。昭和20年1月蒙古科学院の嘱託として蒙疆地域の雲母鉱床の調査に従事されましたが、第二次世界大戦終結直前の7月召集を受けられ、終戦後2年間は極寒のシベリアに抑留されました。

昭和22年11月ご帰国、翌年4月静岡第一師範学校の講師に迎えられ、昭和25年4月新制大学の設立にともない静岡大学教育学部講師、昭和30年4月静岡大学文理学部助教授、さらに昭和40年4月教育学部教授に昇任されました。教育学部では昭和40年度の教務委員長として学部運営に多大なご貢献をされ、続いて昭和41年4月より3年間教育学部附属静岡中学校の校長の要職を併任され、同校の管理運営と中学校教育にご尽力されました。通算26年6カ月の長きにわたる国立大学の教育・研究生活を終えられ、昭和45年3月定年でご退官。引き続きの岐阜教育大学において、大学運営並びに女子教員養成に大いに敏腕を発揮されました。先生は延べ30有余年の長きにわたり熱心な研究指導などで多くの有能な師弟を教育界に輩出され、大学教育に大いに貢献されました。研究面では満州の砂金鉱床と伊豆のマンガン鉱床の両研究が中心的なものと推察され、伊豆半島浅熱水鉱床生成域のマンガンの鉱化作用のご研究は高く評価され、京都大学から理学博士の学位が授与されました。先生はまた昭和36年以来、静岡市文化財審議会員として長い間、文化財保護のため社会に多大なご貢献をされてきました。先生は早くからご研究の傍ら、奥様とご一緒に謡曲をご趣味とされ、謡曲の後輩も育てられ、静岡のほか東京国立能楽堂でも能を舞われた由、また奥様と日本各地のご旅行を楽しまれたご様子でした。

先生の、長年にわたる教育上のご功績、満州、伊豆等の天然資源の探査・研究・開発および文化財保存など多方面でのご貢献が讃えられ、昨年12月勲三等瑞宝章を受けられました。先生の実に温厚篤実なお人柄は広く先輩、同輩、学生などに敬愛信頼されてきました。先生の立派なご生涯に深甚な敬意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

*静岡大学教育学部